

■ 文学部 日本語日本文学科

教育研究上の目的
学則第1条（目的） 本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。
学則第2条の2（学部及び学科） 日本語の歴史的成り立ちや特色について学び、それを基点として日本文学や日本語表現学について深く思考することを通じて、日本文化を世界的視野の中で相対化しつつ捉え返すスキルを涵養する。その成果の上に立ち、これから様々な形で直面することとなる日本文化の問題点を敏感に察知し、時に批判的に、時に柔軟に受容していく知性を備えた人材を養成する。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
文学部日本語日本文学科では、学則第2条の2に示す人材の養成を目指します。教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に従い、履修規程に定められた科目区分毎の卒業必要単位数及び専攻別の履修要件をすべて満たし、厳格な成績評価を経ることにより、総計124単位以上を修得した学生に対して卒業判定を行い、学位（学士（文学））を授与します。 「卒業論文」は必修で、自らテーマを決め、先行研究を踏まえた上で仮説を立て、史資料を通して分析、実証することで、オリジナリティを有する結論を導き出します。「卒業論文」については、論文審査と口述試験を行うことで評価します。 学生が学位の取得を目指して科目の履修を積み重ねることで、以下の能力を身につけることを教育目標とします。
（知識・技能） 1. 日本語学や日本文学に関わる専門的知識を有し、必要に応じて運用できる能力を身につけている。 2. 調査をする能力を身につけている。 3. 資料・データを解釈・分析する能力を身につけている。
（思考力・判断力・表現力） 1. 問題を発見し、テーマをみつける能力を身につけている。 2. ものごとを自分なりに考え、新たなものを創造し表現する能力を身につけている。
（主体性・多様性・協働性） 1. 自分の考えをプレゼンテーションする能力を身につけている。 2. 質問や批判に答え他者と対話する能力を身につけている。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
文学部日本語日本文学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、全学部共通で示す教育課程の編成・実施方針に加え、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. コミュニケーション能力、情報処理能力、基本的な思考方法や総合的な判断能力を養成するため、「外国語」「数理・情報」「自然」「社会」「人文」「総合」「体育」の分野による共通教育科目を設ける。 2. 1年次生の専門教育科目では、学部必修科目として全員が履修する「文学部総合研究」により文学部の各専攻の学問の基礎に触れ、文学部全体の学問を見渡すことで、日本語日本文学を専攻する学生としての広い視野を得る。それに加えて、日本語日本文学科の導入科目として「入門講義（日本語日本文学）」及び「入門演習（日本語日本文学）」が必修となっている。また、人文社会学科各コースの「入門講義」（2科目選択可）及び「入門演習」（1科目選択可）を学部選択必修科目として設け、関心のある文学部の他の専攻の学問領域に触れる機会が提供されている。 3. 2年次以降の主要な専門教育科目として、日本語日本文学を基礎から応用に至るまで体系的に学ぶための演習などの学科必修科目と、講義などの学科選択科目を履修する。
（教育方法） 1. 講義・演習・実習等の授業形態と、少人数教育、アクティブ・ラーニング、PBLなどの多様な教育方法を組み合わせて実施することで、学術分野の特徴を活かした教育課程の展開と自発的な学修の促進を図る。
（学修成果の評価） 文学部日本語日本文学科では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、GPA分布（年度毎、通算）、留年率、卒業論文の成果評価割合等により行う。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行う。

愛知大学 3つのポリシー（2024 年度向け）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

文学部日本語日本文学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

1. 求める学生像

- (1) 〔一般選抜〕高等学校の各教科、とりわけ国語、外国語、公民、数学、地理歴史について基本的学力を有しており、応用、発展的内容の学習へ進む準備ができている人。
〔学校推薦型選抜〕高等学校段階の各教科の基本的内容について学習、理解しており、大学における教育・学習に支障なく移行、適応できる学力を有している人。
- (2) 「日本語」「日本文学」「日本語表現」について興味や関心を抱いており、過去から現在、未来へと至る日本文化について思考・構想することに魅力を感じている人。また、それを思考・構想するための高度な知識や分析方法を習得したいという意欲のある人。
- (3) 大学において学習、習得した日本語・日本文学・日本語表現学に関する専門的知識や研究方法、広義のリテラシー能力を、将来的な自己の人生、職業、社会貢献などに活かしていこうとする意志を有する人。

2. 入学前までに修得すべき能力

（知識・技能）

- (1) 日本語学や日本文学に関心があり、基礎的な知識とそれを運用する能力を有している。

（思考力・判断力・表現力）

- (1) ものごとを自ら論理的に考えるための基礎的能力を有している。

（主体性・多様性・協働性）

- (1) 自分の意見などを発表する基礎的能力を有している。
- (2) 他者の意見などを聞き対話する基礎的能力を有している。

3. 選抜方法

- (1) 一般選抜
基礎学力をバランス良く備えた入学者を選抜するために、3教科以上を課し、その結果を総合判定して合格者を決定する。
- (2) 総合型選抜
出願資格に応じた入試区分を設け、出願書類、小論文、面接等により総合判定して合格者を決定する。
- (3) 学校推薦型選抜
調査票（全体の学習成績の状況）、資格点、面接、学科試験により総合判定して合格者を決定する。